

トルコ（2025 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在トルコ日本国大使館](#)

1. 2024 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024 年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	2	4	195	17	52	2,146	7	24	588	26	80	2,929

（注）2024 年度日本語教育機関調査は、2024 年 9 月～12 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1976 年、日土婦人友好文化協会イスタンブール支部が主催する日本語一般公開講座が開講され、2 年後の 1978 年には、アンカラ大学中国語学科で選択科目としての日本語教育が開始された。

80 年代に入ると、1986 年にはアンカラ大学にトルコ初となる日本語・日本文学科が開設され、日本語・日本研究を主専攻とする高等教育が開始された。また、イスタンブールにあるボアジチ大学、アンカラの中東工科大学といったトルコの主要大学においても選択科目として日本語が開講された。

90 年代になると、アンカラとイスタンブールの 2 つの中等教育機関で日本語を正規科目とする教育が開始される。その後、1993 年にチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学、1994 年にエルジェス大学でも主専攻の学科が開設された。1992 年にはアンカラ大学に大学院が設置され、現在は国内唯一の博士課程も開設されている。

その他、多数の大学で選択科目として開講され、1998年には土日基金文化センターも開館し、日本・日本語ブームがトルコ国内に広がった。

2004年には、トルコ国家教育省の決定により、中等教育機関、特に高校において第二外国語として日本語を選択することができるようになった。

2010年の「トルコにおける日本年」以降、大学講師育成プログラムの対象校が増え、高等教育機関における日本語・日本文学科の設置が相次ぐ。しかし、学生を受け入れるには、当該分野の博士号所有者が3名以上必要なため、学科はあるものの学生がいないという大学が多く存在する。また、同年土日基金文化センターがトルコで初のJFにほんごネットワーク（さくらネットワーク）メンバーになる。

一般教育機関も含め、日本語教育機関数は順調に増加し、2015年には、40を超える機関で日本語教育が実施されていた。しかし、2016年7月のクーデター後、いくつかの私立大学が閉鎖になり、オープンカレッジや市民講座にもストップがかかった結果、同年秋には、日本語教育機関が減少した。

しかし、近年、高等・中等教育機関において日本語主専攻、コースの開設が相次いでいるほか、学校教育機関外の学習者も増加している。

高等教育機関では、2017年にネヴシェヒル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学に日本語日本文学科、2021年にアンカラ社会科学大学に日本語翻訳通訳学科が開設され、日本語・日本研究を主専攻とする大学は計5校となっている。今後数年以内にトルコ・日本科学技術大学の開学も予定されている。

中等教育機関では、2020年にイスタンブール・ティジャーレット・オダス・マルマラ・アナドル・イマーム・ハティップ高校に日本語専修コースが開設された。

また、ポストコロナでは、特に小・中学生の日本語学習希望者が増加し、土日基金文化センターではクラスを増加して対応している。

日本語能力試験は90年代末から実施され、2018年から2019年まではイスタンブールでも7月に1回のみ実施されたが、コロナ禍の影響などにより2021年以降は年2回アンカラのみでの実施となっている。

背景

上記のようなトルコにおける日本語教育の進展の要因として、歴史的に親日感情があり、日本や日本人に対して一般に良いイメージを持っていることが挙げられる。これに加え、日本語ガイドをはじめとする観光関連業での日本語需要の高まり、日本企業のトルコ進出、さらに、アニメ、歌、ゲームといった日本のポップカルチャー、村上春樹をはじめとした文学、ドラマ、映画などの影響もある。

特徴

2017年以降、3校（中等教育機関1校、高等教育機関2校）で日本語専攻コースが新設され、トルコ・日本科学技術大学の開学も数年以内に予定されている。

その他、オンライン学習サイトやソーシャルネットワークを利用するなど独習者も増加するなど緩やかに拡大を続けている。

学習の動機としては、マンガやアニメなどのポップカルチャーをはじめ、日本語そのものや日本文化への関心を挙げる学習者が多い。日本語主専攻以外の学生の中には、趣味のほかに将来の留学や就職につなげたいという考えから日本語を学ぶ者もいる。

また、大学の教員養成課程の存在が挙げられる。チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学には、海外では数少ない日本語教育学科があり、1年間の日本語予備教育と4年間の教員養成課程においてトルコ語母語の教師を育成している。同校は、2020年に開設されたイスタンブール・ティジャーレット・オダス・マルマラ・アナドル・

イマーム・ハティップ高校日本語専修コースをサポートするなど高等と中等の教育機関間の連携もみられる。

最新動向

日本語教育は緩やかに拡大を続け、ポストコロナにおいては特に日本の小中学生に相当する、「移動しない子ども（日本にルーツをもたない年少者）」の日本語学習に関する問い合わせが増加している。トルコ・日本科学技術大学の開学が予定されている。

教育段階別の状況

初等教育

2009年10月よりアンカラ市内の有名私立一貫教育校ジャーレ・テゼル・コレジで、4年生から7年生（日本の小学4年生から中学1年生に相当）を対象に第三外国語の選択科目として日本語が教えられていたが、担当教師の退職により2015年9月以降行われていない。

中等教育

アランヤのヤシャム・タサルム学校（私立）で選択科目として日本語教育が行われている。2020年秋からイスタンブール・ティジャーレット・オダス・マルマラ・アナドル・イマーム・ハティップ高校において予備課程1年、正規課程4年、計5年の日本語専修コースが開設されている。毎年1校が博報堂教育財団の訪日交流プログラムに参加していたが、同プログラムは2025年より休止となった。

高等教育

【日本語・日本研究、日本語教育専攻、在籍学生有の大学】

アンカラ大学、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学、エルジェス大学、ネヴシェヒル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学、アンカラ社会科学大学の5校である。

通常4年間で学士号を取得する。ただし、国内唯一の日本語教育学科を擁するチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学では、入学前に専門科目（日本語）を1年間集中的に学ぶ予備課程を設けているため、5年間での卒業となる。2024年には、アンカラ社会科学大学にも1年間の予備教育課程が設けられた。

文部科学省奨学金（日研生）により、毎年、10名前後が日本に長期留学している。その他大学間の交流プログラムや財団などの支援による訪日研修を利用する学生も一定数いる。

卒業後は、研究者、通訳者、翻訳者、日系企業や団体・機関のスタッフ、教師、観光業など幅広いが、日本語を活かした就職先は限られている。

【選択科目の日本語を開講している大学】

中東工科大学、ビルケント大学、ハジエテペ大学、トブ経済技術大学、アトゥルム大学、アンカラ社会科学大学、イスタンブール工科大学、ボアジチ大学、イズミール経済大学、アクデニズ大学、ウシュック大学、テキルダ－ナーナムック・ケマル大学、パムッカレ大学

【大学院がある大学】

アンカラ大学（博士、修士課程）、エルジェス大学（修士課程）、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（修

士課程)

【日本・日本語学科はあるが、在籍学生無の大学】

日本語日本文学科が大学講師育成プログラムの対象になり、各地の大学に日本語日本文学科が設置された。学部卒業生は各大学の当該学科の所属となってもそのままでは教壇に立てない。そのため、アンカラ大学大学院の博士課程で学位を取り、その後、所属大学に戻り、教鞭をとることになる。しかし、大学の学科が学生を受け入れるには、当該分野の博士号所有者が3名以上必要なため、以下の大学は、学科はあるが、まだ学生を受け入れる状況にはない。

ボゾック大学、セルチュク大学、パムツカレ大学、ユズンジュ・ユル大学、メフメト・アーキフ・エルソイ大学、イスタンブールメデニエツト大学、ナムック・ケマル大学

学校教育以外

【アンカラ】

土日基金文化センター、アンカラ大学トルコ語教育実践センター（トメル）、チャール外国語学校

【イスタンブール】

日土婦人友好協会イスタンブール支部、日本文化情報センター、メディカセヴ語学学校、

【その他地域】

日本イズミール文化友好協会、イズミットの豊田鉄工株式会社トルコ

また、トルコ国内の市民講座のうち、一部のセンター（アンカラ・イスタンブール・イズミール・コジャエリなど）における日本語コース（入門レベル）

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

4-4-4 制。

2012年9月に教育制度の改定があり、前期初等教育（5歳半～9歳）、後期初等教育（10～13歳）、中等教育（14～17歳）の3段階となり、義務教育期間が12年間となった。

中等教育機関には、一般高等学校、理科系専門高校、外国語強化高校、職業高校、技術高校がある。また、2012年9月より後期初等教育において、イマム・ハーティップ中学校（宗教者養成校）が設置された。

高等教育は原則4年間（18～22歳）である。

教育行政

初等教育、中等教育、一般講座は国家教育省が管轄する。

高等教育は高等教育審議会（YÖK）が管轄する。

言語事情

公用語はトルコ語。

外国語教育

前期初等教育から英語学習が始まる。中等教育からは、第二外国語が加わる。一般的に開講されているのは、ドイツ語・フランス語である。一部の学校ではアラビア語、中国語、日本語、スペイン語、イタリア語、ロシア語などが選択肢として用意されている場合もあるが、ドイツ語やフランス語と比べると、選択できる学校はかなり少ない。

外国語の中での日本語の人気

実用面で人気がある欧米言語とは異なり、日本の伝統文化・経済・技術・アニメなどをきっかけにした日本そのものへ興味・関心から選択されることが多い。日本語はアジア言語の中でも依然として人気があるが、近年の国際社会における日本のプレゼンス低下の影響からか、中国語や韓国語の広がりによって押されつつある。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）
『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（三修社）

高等教育

『みんなの日本語』（前出）
『初級日本語とびら』岡まゆみ他（くろしお出版）
『げんき』坂野 永理他（ジャパントイズ出版）
『まるごと 日本のことばと文化』（前出）
『いろどり 生活の日本語』（国際交流基金）
『エリンが挑戦！にほんごできます』（国際交流基金）
『タスクベースで学ぶ日本語』国際基督教大学 教養学部 日本語教育課程（スリーエーネットワーク）
『日本語敬語トレーニング』金子広幸（アスク）
『中級日本語カルテット』安井 朱美他（ジャパントイズ出版）
『上級へのとびら』（くろしお出版）

自作教材

学校教育以外

『みんなの日本語』（前出）

『まるごと 日本のことばと文化』（前出）

『みんなの日本語 中級』（前出）

『こどものにほんご』 [ひょうご日本語教師連絡会議子どもの日本語](#)（スリーエーネットワーク）

IT・視聴覚機材

大学には各教室にプロジェクターがついているが、LL 教室（カセットテープ）のままとなっている機関もある。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

正規雇用は、日本語日本文学科か日本語教育学科を修了した教員免許所有者。

高等教育

修士号以上が要求される。外国人はその限りではない。

学校教育以外

国家教育省の認可を受けている機関の正規雇用は、日本語日本文学科か日本語教育学科を修了した者に限る。非常勤はその限りではない。

日本語教師養成機関（プログラム）

チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学教育学部日本語教育学科

3年生は「外国語教授法」、4年生は「教材開発」及び「教育実習」の授業がある。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

国立大学の外国人教師は雇用枠があり、政府から給与が支給される準公務員扱いになる。通常、大学が公募し、高等教育審議会（YÖK）の審査を受ける。常勤の日本人教師は、その枠内での期間雇用になり、期間満了後には両者の合意のもとに更新可となり、長期勤務の教師もいる。

日本語・日本研究の主専攻学科がある大学では、1～4人程度の日本人講師が雇用されている。選択科目として

日本語を開講している大学では、日本人が1人で担当しているところが多い。

国家教育省の管轄下にある高校以下の教育機関及び一般講座の場合、日本人教師の正規雇用は難しい。

各機関において、ほとんどの日本語ネイティブ教師は、日本語科目（総合日本語）を担当している。中には、「教材開発」といった教員養成課程の科目を担当している教師もいる。学習者の側からは、日本人教師を通じて、日本社会や文化（礼儀や考え方なども含む）文化面の情報を得ることも期待されている。日本人教師の存在は、学習意欲の向上や維持にもつながるとされている。

教師研修

JF「海外日本語教師研修プログラム」に加え、2009年より博報児童教育振興会（現博報堂教育財団）の「海外教師日本研修プログラム」が実施されている。2023年度からは文部科学省教員研修留学生の対象となった。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

トルコにおける日本語教育の質の向上と発展、教師間の情報交換を目的として2001年11月に発足したが、国の認可を受けた組織ではない。メーリングリストがあり、情報共有や諸連絡に利用されている。

2002年から、毎年国内の日本語教育関係者が集まり、研究発表、実践報告、機関紹介、情報交換などを行う場として、開催機関主催の「トルコ日本語教師会大会」を行ってきた。

2014年から、トルコ内での日本語関連活動のさらなる発展を目指し、国の認可を得た組織にしようという声が出始める。2014年、土日基金文化センターで日本語日本文化及び日本語教育の分野の博士号取得者で、かつトルコ国内の大学に勤務している学識者によるラウンドテーブルが開催され、トルコにおける専門分野の研究を進めるうえでの課題を確認し、その対策が協議された。これを受け、2015年からその準備委員の7名が組織設立のために動き出すこととなる。そして、2016年12月、日本語・日本文化研究・応用センター（以下、JADKAM）が土日基金文化センター内に開設された。今後、JADKAMにより、日本研究・日本語教育関係者のネットワークが、さらに強化されることが期待される。

2016年、15回続いた教師大会を国際的なものに発展させた「第1回トルコ日本語・日本語教育国際シンポジウム」が開催され、以降、「日本語・日本語教育研究国際大会」として毎年、開催されている。また、2017年12月には、JADKAM設立1年を記念した教師会議が開催された。

コロナ禍により活動が制限されていたが、2023年1月より活動が再開された。

(1) 日本語教師会 開催状況

- 2002年9月 第1回大会 チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学
- 2003年9月 第2回大会 ボアジチ大学
- 2004年9月 第3回大会 アンカラ大学
- 2005年9月 第4回大会 エルジェス大学
- 2006年9月 第5回大会 中東工科大学
- 2007年9月 第6回大会 イスタンブール・ビリギ大学
- 2008年8月 第7回大会 チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学

（ヨーロッパ日本語教師会との共催で、ヨーロッパ日本語教育シンポジウムと共同開催）

- 2009年8月 第8回大会 土日基金文化センター
- 2010年8月 第9回大会 アンカラ大学
- 2011年8月 第10回大会 サバンジ大学
- 2012年9月 第11回大会 ヤシャール大学
- 2013年6月 第12回大会 エルジェス大学
- 2014年6月 第13回大会 ボアジチ大学
- 2015年6月 第15回大会 土日基金文化センター

(2) 日本語・日本語教育研究国際大会開催状況

- 第1回 チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（主催）
- 第2回 ナムック・ケマル大学（主催）
- 第3回 エルジェス大学（主催）
- 第4回 アンカラ大学ディディム ÖRSEM（アンカラ大学主催）

(3) その他のセミナー・ワークショップの開催状況

- 1) 2003年9月「日本語教育ワークショップ」（アンカラ大学開催）
- 2) 「日本語教育連絡会議」
 - 2013年9月 土日基金文化センター
 - 2004年8月 チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学
- 3) 「トゥルク諸語における日本語教育セミナー」（2010年から「トゥルク諸国日本語教育セミナー」）
 - 2008年9月 第1回 アンカラ大学
 - 2010年8月 第3回 土日基金文化センター
 - 2017年1月、第5回 アンカラ大学

2010年より、トゥルク諸国日本語教師ネットワークとしてメーリングリストを通しての情報交換が始まる。
- 4) その他、トルコは中東・北アフリカ地域の日本語教育ネットワークにも含まれており、年1回 JF カイロ日本文化センター主催の「中東・北アフリカ日本語教育セミナー・シンポジウム」への参加も可能である。2015年は3名、2019年は1名が参加した。2021年から オンライン形式での開催となり、トルコからの発表は、2021年は1名、2022年は3組、2023年は1名である。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語専門家

土日基金文化センター 1名

その他からの派遣

(情報なし)

8. シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

中等教育

トルコ国家教育省による外国語教育のシラバス・ガイドラインが提示されており、日本語もその中に含まれているが、日本語の統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9. 評価・試験

1. 日本語能力試験
2023年度はアンカラで2回実施されている。
2. YDS (Yabancı Dil Sınavı : 公務員外国語レベル判定試験)
公立・国立の教育機関で正規教員として働くために必要とされる外国語能力を測る試験で、この日本語試験が、国の認可を受けている唯一の試験である。この試験は年1回実施されている。

10. 日本語教育略史

1978年	アンカラ大学言語地理歴史学部中国語学科に選択科目として日本語が入る
1986年	アンカラ大学言語地理歴史学部内に日本語日本文学科設置
1988年	ボアジチ大学で選択科目の日本語開講
1989年	中東工科大学で選択科目の日本語開講
1992年	ラジオ・テレビアナトリア工業高校、イスタンブール商工会議所アナトリア商業高校が日本語教育実施
1993年	チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学教育学部外国語教育学科内に日本語教育学科設立

1994年	エルジェス大学文理学部東洋言語学科に日本語日本文学専攻設置 ビルケント大学に選択科目の日本語開講
1996年	イスタンブール・ビリギ大学で選択科目の日本語開講
1997年	第1回トルコ日本語教育者会議開催（主催：チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学）
1998年	第2回トルコ日本語教育者会議開催（ボアジチ大学、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学による共催）
1999年	エーゲ大学で選択科目の日本語開講
2000年	土日基金文化センターで日本語講座開講
2001年	「トルコ日本語教師会」発足
2002年	第1回トルコ日本語教師会大会開催（チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学）
2003年	イズミール経済大学で選択科目の日本語開講
2006年	イズミール工科大学、サバンジ大学で選択科目の日本語開講 イズミールで、JICA 訪日研修生 OB が集まり、JIKAD の前身となる団体を作り、日本語教育が始まる。
2007年	ファーティヒ大学、チャナッカレ市ミッリピアンゴ高校で選択科目の日本語開講
2008年	メルシン市の市民講座の日本語閉鎖（JICA シニアボランティア帰国） エルジェス大学が大学院設置申請 チャンカヤ大学で選択科目の日本語開講
2009年	バフチェシェヒル大学、トップ大学、トップ大学附属学校で選択科目の日本語開講 ヒッターイト大学で単位認定外講座の日本語開講 ジャーレ・テゼル・コレジの第三外国語に日本語が入る
2010年	土日基金文化センターがさくらネットワークメンバーになる 日本文化センターがバフチェシェヒル大学に開設 ボゾック大学、ネヴシェヒル・ハジ・ベクタシ・ヴェリ大学、ユズンジュ・ユル大学、ナムック・ケマル大学に日本語日本文学科設置 ヤシャーラ大学で選択科目の日本語開講 ハジェテペ大学言語教育研究センター、ガージ大学トルコ語教育実践センター、

	ドクズ・エイリユル大学言語教育研究実践センターで日本語開講
2011 年	セルチュク大学に日本語日本文学科が設置 イズミール大学で選択科目の日本語開講
2012 年	イスタンブール商科大学で選択科目の日本語開講
2013 年	ゲディズ大学、メフメト・アーキフ・エルソイ大学、コジャエリ大学、イノニュ 大学で選択科目の日本語開講 外国語学校 EFS 外国語学校で日本語開講 アンカラ社会科学大学に日本語日本文学科設置
2014 年	日本語日本文学、日本語教育分野のトルコ人有識者によるラウンドテーブル実 施 チャンクル市文化講座日本語開講 イスタンブール職業訓練コース (ISMEK) 日本語開講
2015 年	KTO カラタイ大学、サバンジ大学の選択科目の日本語閉講 ジャーレ・テゼル・コレジの日本語授業終了 イペッキ大学、アトゥルム大学、チャンクルカラテキン大学で選択科目の日本語 開講 アンカラ大学がさくらネットワークメンバーに入る
2016 年	第 1 回トルコ日本語・日本語教育国際シンポジウム開催 (チャナッカレ・オン セキズ・マルト大学) イペッキ大学、ゲディズ大学、ファーティヒ大学、イエディテペ大学、イズミ ール大学閉鎖 外国語学校 EFS Yabancı Dil Kursu の日本語閉講 ガラタサライ大学市民講座、チャンクル市文化講座の日本語閉講 チャンクルカラテキン大学選択科目の日本語閉講 ヒッターイト大学の単位認定外講座の日本語閉講 アランヤのヤシャル・タサルム高校で、日本語授業開始 エスキシェヒルのアタユルト学校高等部必修クラブで日本語指導開始 日本語・日本文化研究・応用センター (JADKAM) 開設
2017 年	日本語能力試験の年 2 回実施 ネヴシェヒル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学科学・文学部・日本語日本文学 科開設
2018 年	日本語能力試験 イスタンブールでの実施 アンカラ・ラジオ・テレビアナトリア工業高校の日本語授業停止 チャナッカレ・ミッリピアンゴ高校の日本語授業停止 エスキシェヒル・アタユルト学校高等部日本語指導終了

2019年	市民センター（アンカラ・イスタンブール・イズミールなどの一部のセンター）での日本語開講
2020年	イスタンブール・ティジャーレット・オダス・マルマラ・アナドル・イマーム・ハティップ高校において日本語専修コース開始 コロナ禍により日本語能力試験中止
2021年	日本語能力試験再開（年2回アンカラのみ実施） アンカラ社会科学大学外国語学部日本語翻訳通訳学科開設
2022年	土日基金文化センター日本語講座拡大
2023年	トルコ共和国建国100周年 アンカラプレゼンテーション大会2023（コロナ禍後対面実施再開） JADKAM2024 ビジョン会議実施
2024年	アンカラ社会科学大学外国語学部日本語翻訳通訳学科予備教育開始

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）